

第 89 回 宗教改革①

1 宗教改革の背景

- ・16世紀、キリスト教世界ではローマ教皇とローマ=カトリック教会（カトリック）への批判から各地で大きな改革運動が起こった。
→これを（ ）という。
- ・なお旧来のカトリックを旧教、宗教改革で登場した新しい宗派を新教と呼ぶ。

<宗教改革の背景>

- (1) （ ）の失敗や（ ）の影響で、中世に比べてローマ教皇を頂点とする教会の権威は揺らいでおり、腐敗や墮落が批判されていた。
- (2) イギリスやフランスでは国王の権力が増加し、各国で教会の影響力は相対的に低下していた。
- (3) （ ）の時期に、教会が使うラテン語に訳された聖書ではなく、ヘブライ語やギリシア語で書かれた聖書の原典研究が進んだ。
→ローマ教皇や教会の教えに、疑問を持つ人たちが登場した。



エラスムス
宗教改革に多大な影響を与えた人物。最初は好意的だったが、次第にルターと対立した。

2 宗教改革前夜

- ・1517年にはじまる宗教改革以前にも、宗教改革の先駆者とされる人物が、各地で教会の批判をこころみていた。

- （ ）…14世紀のイギリス人で、オクスフォード大学の神学教授。
ローマ教会の腐敗を批判し、聖書の英語訳を行った。
- （ ）…ベーメン（ボヘミア）（現在の ）の一部）出身で、イギリスのウィクリフに共感し、教会の改革をこころみた。
→1414年に始まる（ ）で異端とされ、火刑となった。
→これに怒ったベーメンで反乱が起こり、フス戦争となった。
- サヴォナローラ …15世紀末、フィレンツェで改革を行ったが、火刑となった。



ウィクリフ

コンスタンツ公会議で異端とされたが、すでに死んでいたため墓をあげられた。
第65回を復習。



フス



フスの火刑

プラハ大学の学長であったフスは、ウィクリフの説を支持したため、安全を保障されていたにもかかわらず、異端とされ生きたまま焼かれた。



サヴォナローラ

フィレンツェの修士サヴォナローラは、市民の贅沢やメディチ家の独裁を批判して、熱狂的な支持を受けたが、最後は処刑された。

3 宗教改革のはじまり

- 16世紀はじめ、メディチ家出身のローマ教皇（ ）は、ヴァチカンの（ ）を改築する資金を集めようとした。
→ドイツ地域などで、（ ）を売り出した。
※ドイツにあった神聖ローマ帝国が政治的に分裂状態だったため。

- 1517年、ドイツの（ ）大学の神学教授（ ）は、（ ）を発表し、ローマ教会による贖宥状の販売を批判した。
→1520年、『 』を発表し、ローマ教会そのものの批判を始めた。
→ローマ教会はルターを破門するが、ルターとルター支持の諸侯は反発した。
- 1521年、神聖ローマ皇帝（ ）は、（ ）にルターを呼び出すが、話し合いは決裂した。



教皇レオ 10 世

ロレンツォ=デ=メディチの息子である。当時のドイツは分裂状態であり、「ローマの牝牛」と呼ばれていた。



マルティン=ルター 「九十五か条の論題」



ルターは、ヴィッテンベルク教会の扉に、「九十五か条の論題」をはりつけた。ただしラテン語で書いたため、一般市民には何のことかわからなかった。



神聖ローマ皇帝カール5世

ハプスブルク家の出身で、スペイン王も兼任した。オスマン帝国やフランスとの争いに苦慮し、宗教改革には積極的な対応はできなかった。

4 ドイツの宗教的内乱

- ルターは、反皇帝派の諸侯である（ ）にかくまわれた。
→そこでルターは、（ ）を完成させた。
→これにより、庶民も『新約聖書』を直接読むことができるようになった。

- ルターを支持する諸侯は、領内の教会の首長となってローマ教会（カトリック）の権威から離れた。これを（ ）という。
- また『新約聖書』のドイツ語訳やルターのパンフレットなどが広まると、しだいに農民や市民の間にも、ルターの支持者は増えていった（ルター派）。



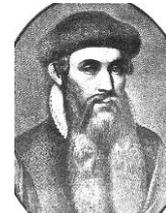
ザクセン選帝侯フリードリヒ

選帝侯とは、神聖ローマ皇帝を選ぶ選挙権を持った大諸侯のことである。第65回を復習。反皇帝派の諸侯もかなり多かった。



ヴァルトブルク城

ルターはこの城にかくまわれ、『新約聖書』のドイツ語訳を行った。難関大学を受ける人は、この城の名前も覚えておこう。



印刷技術が発達していたことは、宗教改革に多大な影響を与えた。そういえば同じドイツ人である。第87回を復習。



ミュンツァー
ミュンツァーは、ルターを「嘘つき博士」と呼んで非難した。最後は捕えられて斬首された。

- 1522年、没落した騎士が反乱を起こしたが、鎮圧された（騎士戦争）。
- 1524年、（ ）に率いられた農民は、十二カ条要求により農奴制の廃止や地代の軽減を目指して（ ）を起こした。
→ルターは、最初は反乱を支持したが、反乱が現世の利益のみを求めているとして後に批判にまわり、反乱も鎮圧された。